

佐倉市少年野球連盟友遊ボール大会規則

令和4年2月19日改定

(出場資格及びチーム構成)

1. この大会は、少年野球の底辺拡大を図るため、多くの低学年（小学3年生以下）と保護者の参加を得て少年野球の楽しさを理解して頂く事を目的に実施するもの。
2. チーム構成は、成人者による代表、監督、コーチ（2名）、スコアラー、選手は3年生以下の小学生で主将を含む7名以上に登録選手の保護者（父母）を加え、25名以内とする。但し、今年度も4年生の女子の出場を認める。
なお、本大会に同一クラブで複数チーム出場する場合は、代表者を除きチーム構成員はチームを跨った出場は禁止する。
3. 選手登録は、出場予定選手（保護者を含む）全員の氏名を記載したものを提出期限までに1通提出する。（背番号は不要）

(服装・用具)

1. 出場するチームの服装は、ユニフォーム又は、運動の出来る服を着用し、靴は運動靴若しくはスパイクシューズとする。（金属製の使用を禁止する。）
2. バットは県連盟指定のメガホンバットとし、ボールは柔らかいケンコーボールとする。これ以外の用具の使用を禁止する。連盟大会では大会本部で用意するのでチームからは不要。

(開会式等)

1. 大会開会式での選手宣誓は、抽選時に当該番号をクジで引いたチームの選手とする。

(試合の集合時間・準備)

1. 第1試合のチームは、試合開始時刻30分前までに集合し、球場責任者による受付を完了すること。第2試合、第3試合のチームも同様とする。
2. メンバー表の提出は不要。選手数の少ないチームに負傷者が出た場合は、既に交代した選手の再出場を認めることとする。
3. ベンチは、抽選番号の若番が1塁側とする。攻撃の先攻・後攻は、試合開始前に両チームの主将によるジャンケンにより決定する。シートノックは、大会運営上原則として行わない。
4. ベースコーチは、指導者または保護者が入ることとする。
5. 友遊ボールのグラウンド設営は大会役員、参加チームの協力者において行う。
 - イ) 各塁間は15m
 - ロ) 本塁と投手間は5mとし、その中心から半径1mの円を引きその円内から投球する。
 - ハ) 1・2、2・3、3・本塁の中間地点に「見なしライン」を引く。
- ニ) 本塁から外野に向かって40mの地点にホームランゾーンのラインを引く。

(試合時間及び試合内容等)

1. この大会は2日間で行う。初日の試合は、1～3回戦までをブロックのリーグ戦とし、上位2チームが決勝トーナメント戦に進出できる。ただし、この大会に出場するチームの数及びその他の都合により、ブロックリーグ戦の試合数の変更または、ブロックリーグ戦を中止し、全試合をトーナメント戦とすることがある。なお、各ブロック戦において上位チームが同率の場合は代表決定戦を行い、決勝トーナメント出場チームを決定する。代表決定戦は2イニングを行い、勝敗が決定しない場合は、勝敗が決する迄繰り返し行う。2日目に決勝トーナメント及び表彰式・閉会式を行う。
2. 試合は、1試合5回戦で勝敗を争うこととする。タイムゲームを適用し、30分を超えたら新しいイニングには入らないで、その時点の得点をもって勝敗を決定する。得点差によるコールドゲームは3回均等回終了以降15点差の時適用する。決勝戦も同様とする。日没・降雨によるコールドゲームの適用も同様とする。
3. 試合の攻守交代は3アウトとする。守備は（投手を除く）9名（登録選手の保護者を含む）とし、2名以内の登録選手の保護者（女性）の守備位置は捕手と1塁手に限定する。打順は、8・9番とする。参加する男性の保護者は味方相手の投手に限る。打者として打席に立つことは禁止する。

4. 投手は攻撃側のチームの保護者（父親可）とし、メンバー登録された選手の保護者に限定する。投手は前記の5 mのサークルから下手投げでボールを投げることにし、打者の打ったボールに直接当たるとは触れたり守備側の守備を妨害・妨げをした場合は打者をアウトとする。
5. 守備に付く選手は、投球前に5 mライン内に位置することは出来ない。打者が打ったボールが5 mラインを超えない場合は全てファールボールとし打ち直しとする。なお、野手が5 mライン内でダイレクトで捕球した場合に限りファールフライの直接捕球とみなしアウトが成立する。また、この場合にはダブルプレイを試みて塁への送球が可能となる。バント及びバント同様の打撃は不可。
6. 友遊ボールで競技で3振・死球・四球・盗塁はありません。打者がメガホンバットでボールをフェアゾーンに打つかファールフライを直接捕球されるまでは打席に立つことが出来る。但し、頭上より高く投じたボールを打った場合は、その打者の打撃は無効とし再度打ち直すこととする。
7. 友遊ボール競技は全て（フライ、ライナーの直接捕球を除く）フォースアウトとし、タッチアウトはないものとする。従って守備側の選手がボールを持って走者にタッチをしてもアウトにはならない。必ずベースに入るかベースタッチによってアウトが成立する。
8. 走者は投手が投球し、打者が打撃をしてから離塁すること。また、野手から投手にボールが返球されている時も進塁してはならない。また、各塁へのスライディングは認めるが、守備側選手に対して危険とみなした場合は走者をアウトとする。
9. グランドには本塁から外野まで40 mの位置にラインを引き、打球がダイレクトでこのラインを超えた場合はホームランとし、ゴロで超えた場合は2塁打とする。
10. 記録員は各会場とも連盟の理事が担当する。
11. 試合の審判は各コートとも帯同審判制とする。球審（内野の位置）と副審（ホームベースの後方）を行なう。

（特別延長戦）

1. 試合が5回均等回終了後又は30分を経過し、得点が同点の場合は、直ちに特別延長戦を実施する。打者は4番とし、走者は1番が3塁走者、2番が2塁走者、3番が1塁走者として1死満塁で1イニングを行い、得点の多いチームを勝者とする。勝敗が決定しない場合は、決定するまで上記と同様に行い勝者を決定する。
2. 各ブロックで決勝トーナメント進出チームが同率で複数ある場合は、2イニングを1番打者から行う。勝敗が決定しない場合は決定するまで行う。

（決勝トーナメント戦）

1. 決勝トーナメントは各代表チームで抽選を行うが、ブロック1位と他ブロック2位チームが対戦する様に抽選する。まずは第1位チームを抽選するが、同一クラブがある場合は決勝戦まで当たらぬように組合せする。次に2位チームを抽選するが第1位チームと同様に同一ブロック2位、同一クラブがあたらぬように抽選する。なお、準決勝敗退チームは3位決定戦を行う。表彰式は上位4チームが参加すること。

（審判判定）

1. この規定に定めるもののほか、必要事項は審判が大会責任者と協議して決定する。
2. 保護者の交代は保護者同士か、選手と交代する場合は保護者がその時点で3名とにならない様にする。

付則 令和4年2月19日：（出場資格及びチーム構成）2のなお、・・・以下を追記し即日施行する。
3の（保護者を除く）を（保護者も含む）に改定し、即日施行する。
（試合時間及び試合内容等）
5にバント及びバント同様の打撃は不可を追記し、即日施行する。